

## えひめの歴史文化モノ語り

## 県歴博収蔵資料から④

獣鏡の破片が発見されたのであろうか。

江戸時代後期の1786(天明6)年に近隣の嶺昌寺周辺が描かれた「嶺昌寺境内及び山林図(当館蔵)には、この場所に古墳らしきものは描かれていない。また明治時代の地籍図や太平洋戦争後に撮影された空中写真にも古墳らしきものは確認できない。

邪馬台国の女王卑弥呼(ひみこ)が魏の皇帝からもらったともいわれる青銅製の鏡「三角縁神獣鏡(さんかくえんじんじゅうきょう)」。写真は1969年に、伊予市上三谷のミカノ畑の一角にある祠(ほくら)の近くで見つかったもの。

また、その後の聞き取り調査によって、祠から約40分離れた水田でも鏡片の一部が採集されていることが分かった。

どうして畑の片隅に祭られた祠と水田から三角縁神

## 伊予市に古墳存在示す

の墓が継続して造営されており、本資料も当地域が伊予地域の首長の奥津城(おくつぎ)であったことを示す貴重なものである。

なお三角縁神獣鏡は県内では、この上三谷で採集された2面の他にもう1面が今治市国分(こくぶん)古墳で発見されており、合計3面が確認されている。また全国的には列島各地の前期古墳から現在、約500面出土している。

(県歴史文化博物館専門学芸員・富田尚夫)

〈月2回掲載します〉

## 三角縁神獣鏡



伊予市で見つかった三角縁神獣鏡の復元図(破片と京都府椿井大塚山古墳出土鏡を合成)古墳時代前期、破片は県歴史文化博物館保管